

平成17年度高知女子大学看護学会「公開講座」報告

山 田 覚*

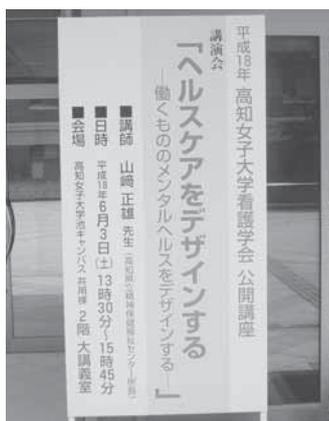
平成16年度および17年度のメインテーマである「ヘルスケアをデザインする」に対応し、『働くもののメンタルヘルスをデザインする』と題して、平成18年6月3日（土）に、高知女子大学看護学会公開講座が、池キャンパス大講義室にて開催された。様々な施設から、113名の看護に携わる方々のご参加を得た。

松本女里学会長による挨拶の後、高知県立精神保健福祉センター所長の山崎正雄先生よりご講演を頂いた。山崎先生は、高知医科大学医学部医学科を卒業され、高知県中央保健所、高知県立精神保健福祉センターなどに勤務され、精神保健指定医として県下の精神保健事業に従事されて来た。また、全国精神保健福祉センター長会副会長や、高知県精神保健福祉協会理事などの役職も歴任され、精神保健のエキスパートとして活動されている。

近年、さまざまなメンタルヘルスの問題が、日常のニュースでも多く取り上げられており、今回は山崎先生とともに、専門職者として自

らの、あるいは職場のメンタルヘルスをどのようにデザインしていくかについて考える良い機会となった。

ご講演では、現代は、能力主義へ、あるいは個人（の能力）の時代へと移り変わって来ており、職場という集団での人間関係と「個人」としての自分との両者の間で葛藤がたかまる現状があるが、このような職場環境の変化や、あるいは家庭問題の複雑化、社会の変化、対人関係の変化を考えながら、職場のメンタルヘルスの背景を整理して頂いた。また、職場のメンタルヘルスへの対応を、早期発見、受診への導入、職場の対応（受診につなげるだけではない）、休職するとき、の各フェーズで整理し、職場のメンタルヘルスに関し、事例を通して分析して頂いた。最後に、事例対応の実際として、相談の基本、メンタルヘルス教育、職場でのコミュニケーションについて解説して頂いた。



*高知女子大学看護学会企画委員長